

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input checked="" type="checkbox"/> 21世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	指導内容を重視した読解指導の構築—実社会で役立つ思考力・判断力養成を目指したプログラムの開発—	
研究者所属・氏名	研究代表者： 経営学部 教養・基礎教育部門 教授 吉田幸治 共同研究者： 経営学部 教養・基礎教育部門 教授 白川泰旭 同教授 大村吉弘、同准教授 平井大輔	

1. 研究目的・内容

これまでの読解指導に散見された不備の解決を図り、豊かな人間性を形成し、自立した学習者を養成し、それによって培った能力をもとにして自発的に知識の吸収に努めることができる論理的思考力の備わった人材の育成を目指すための基礎的研究が目的である。知識の涵養と思考力の養成を目指した読解指導法を探究し、読解指導上の諸問題解決の糸口を提示することを目標とし、教育学・哲学・文学・心理学・言語学等における過去の膨大な研究成果を批判的に再検討した。

2. 研究経過及び成果

読解指導において重要となるのは、(1)学習者の能力および意欲の把握、(2)学習到達目標の設定、(3)使用素材の選定、(4)指導法の洗練、(5)指導効果の測定、(6)学習者への継続的な方向づけなどがあるが、本研究においては特に(2)-(5)を中心に考察することに主眼を置き、各自が必要となる準備を行った。このような指針にもとづき、2011年度の前期中に(A)読解指導に関連する書籍・論文・資料の収集(担当吉田)、(B)文学研究と読解指導との関連についての考察(担当白川)、(C)教育学・心理学と読解指導との関連についての考察(担当大村)、(D)言語学と読解指導との関連についての考察(担当平井)を遂行した。それぞれがまとめた資料をもとに、報告会および研究会を行いながら、各自が分担する作業において何が問題となるかを議論し合った。

こうした研究成果をもとに、2011年9月4日に行われた *The First Extensive Reading World Congress*. 「第一回多読国際会議」(於 京都産業大学)において“Bridging the Gap between Extensive Reading and Intensive Reading—With Special Reference to Literature, Vocabulary, and Linguistics”と題するコロキウムを行った。そこでは共同研究者四名全員がスピーカーとしてそれぞれの研究成果を報告し、出席者との質疑応答も活発に行われ、実り豊かな成果を得られる結果となった。なお、これは同国際会議における唯一のコロキウムとなり、多くの方に参加していただくことができた。

上記国際会議の発表では、それぞれの立場から読解指導の問題点と課題を指摘したが、当日の参加者から得られた質問・意見などをもとに、それぞれの考察を深化させたいうで、各自が論文として公表できるものを作成した。具体的には、それぞれ、a.日本の英語教育の現状と課題を読解指導の側面から考察した“English Education in Japan.”(吉田)、b.原典読解の重要性を指摘した“An Invitation to the Original Pieces.”(白川)、c.語彙習得の観点から多読と精読の長所と短所を考察した“Vocabulary Acquisition through ER and IR.”(大村)、d.語学の成果を読解指導のどのように応用すべきかを論じた“Should We Bring Findings of Linguistics to Reading Classes?”(平井)の四編の論文である。これら四編は近日中に公表される予定である。

さらに、ここまでの研究成果を多くの方に報告する手段として、2012年3月16日に近畿大学経営学部におけるFD集会「大学外国語教育再考—2言語同時学習も視野に入れた真の大学語学教育の構築をめざして—」を開催した。同FD集会では、二名の外部講師を招き読解指導の問題に留まらず、語学教育をめぐる様々な問題を考察し、問題提議を行った。学外の参加者も含め、語学教育に関する様々な議論を行うことができ、我々の研究に対して示唆的な情報を集めることにも成功した。一年間の共同研究活動を締めくくるにふさわしい実りある会合を持つことができた。全員が満足できる成果を得た。

現在これらの成果から得た情報を現場で応用可能なものへと整理する作業を行っている。

3. 本研究と関連した今後の研究計画

概ね当初の研究計画通りに研究を進めることができたが、メタ認知技能に関する研究および様々な情報伝達手段の利用に関する研究が不足していたので、この点に関して考察を深めていく予定である。また、収集した実験データおよび研究資料の整理がまだ不十分な状態であるので、当面この作業を行うことによって、論文としてまとめた考察の精度を高めていきたいと思う。

なお、研究成果としてまとめることができた四編の論文は国際多読学会へ既に投稿し、査読が終了した段階にあり、近々公表される予定である。

さらに、学外の研究者を含めてこれまでの研究を継続するために、同様の研究内容・研究目的による科研費への応募を検討しているところである。

4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
The First Extensive Reading World Congress (第一回多読国際会議)	口頭発表(代表者・共同研究者全員が発表者として登壇)	2011年9月4日
近畿大学経営学部FD集会「大学外国語教育再考—2 言語同時学習も視野に入れた真の大学語学教育の構築をめざして—」	口頭発表(吉田、大村および外部講師二名が発表者として報告を行い、白川、平井が司会を担当)	2012年3月16日